

質問のスキルをアップさせるためのシステムの開発

Development of the system to improve the skill of the question

佐藤 寛大
Hiroki Sato

1 前回までの進捗

King,A 先生の質問語幹リスト法を用いて,九州共立大学院人間環境学研究院の生田淳一先生・丸野俊一先生が行われた実践的な研究を参考にした,質問のスキルをアップさせるためのシステム.

2 今回の課題

1. 課題文に King,A 先生の質問語幹リストを当てはめてみて型を探す.
2. 疑問感の生起の部分に重点を置く.
3. 他人との意見交換のみでは弱いのでそれ以外のところから疑問感の生起を探す.
4. 最初は専門用語や固有名詞を問う質問にし,次に文節から質問を探し出すようにしてドリル問題のようにする.

3 King,A 先生の質問語幹リストを用いた調査

1. 調査内容

2014年度センター試験 国語(評論文)・自民党 政権公約 2014・毎日新聞 2014年12月10日”真珠湾攻撃という選択肢しか、日本にはなかったのか。”を課題文とし,それぞれの課題文に King,A 先生の質問語幹リストをあてはめてみた.あてはまった文をマーキングし,それぞれの課題文に質問・分類・マークした場所をエクセルでリストにまとめてみた.

2. 質問語幹リスト

King,A 先生の質問語幹リストを次の表に示す.

- (1)・・・の強い点と弱い点は何か(分析/推論)
- (2)・・・と・・・の違いは何か(比較)
- (3)なぜ・・・か説明して下さい(分析)
- (4)もし・・・なら何が起こるのか(予測/仮説立て)
- (5)・・・の本質は何か(分析)
- (6)・・・が起こったのはなぜか(分析/推論)
- (7)・・・の他の例は何か(応用)
- (8)どうやって・・・が・・・するのに用いられるか(応用)
- (9)・・・の意味は何か(分析/推論)
- (10)・・・は何と似ているか(類推と比喩の認識と創造)
- (11)・・・について既に分かっていることは何か(既有知識の活性化)
- (12)・・・は・・・にどのような影響を与えるか(関係の分析)
- (13)・・・は私たちが以前に学んだものとどのように結びつけるか(既知知識の活性化)
- (14)・・・が意味するのは何か(分析)
- (15)なぜ・・・は重要なのか(重要性の分析)
- (16)・・・と・・・はどのように似ているのか(比較)
- (17)・・・はどのように日常生活に適用するか(現在の生活の適用)
- (18)・・・の反論は何か(論点への反論)
- (19)1番良い・・・は何か,またなぜか(評価と証拠の用意)
- (20)・・・の問題の解決法は何か(意見の統合)
- (21)・・・と・・・を・・・の関心と比べる(比較)
- (22)あなたは・・・の原因を何だと考えるか,またなぜか(関係の分析)
- (23)・・・;あなたはこの記述に賛成か反対か(評価と証拠の用意)
あなたの答えを支持するために,どのような証拠があるか
- (24)・・・を見る別の方法は何か(他視点の取得)

3. 調査結果

- (3) なぜ・・・か説明して下さい(分析) :19回
 - (9)・・・の意味は何か(分析/推論) :15回
 - (12)・・・は・・・にどのような影響を与えるか(関係の分析) :13回
 - (5)・・・の本質は何か(分析) :11回
 - (20)・・・の問題の解決法は何か(意見の統合) :7回
 - (14)・・・が意味するのは何か(分析) :5回
 - (7)・・・の他の例は何か(応用) :3回
 - (6),(16) :2回
 - (2),(11),(15),(17),(18),(22),(23) :1回
- という結果が得られた。

4. 考察

最初に質問語幹リストの(5)・(9)に注目した。(5)・(9)の特徴は単語(専門用語・固有名詞)の意味や本質が質問になることである。これは単純に単語を知っているか知らないかの差なので低級者の質問だと考えた。・・・A

二番目に質問語幹リストの(20)に注目した。(20)の特徴は”安全保障政策” ”人口減少問題” ”大都市からの新たな人の流れを生み出します” ”近隣諸国” ”拉致”など社会問題が質問になることである。ただし、社会問題だけでなく、いろんな問題事が(20)に適用すると思う。・・・B

質問の意味はそれぞれ異なるが、三番目に質問語幹リストの(2)・(12)・(16)に注目した。これらの特徴は”aはbへの～” ”aはbとなるのです” ”aとb” ”aをbにします” ”aとはbであり,cであり,dである”のように単語(名詞)の並列やつながりが質問になることである。・・・C

四番目に質問の意味にとらわれず”しかし” ”たとえば”などの接続詞(順接・逆接・並列・累加・説明・例示・対比・選択・転換)がつく文は質問になっているところがあると分かった。センター国語の評論文だと接続詞のあとに筆者の主張が述べられていたりするので、接続詞のある文の質問は上級者の質問だと考えた。・・・D

最後に質問語幹リストの(3)に注目した。例外もあるが、(3)の特徴は”～する必要があります。” ”～が必要です。” ”～と思います。” ”～には必要です。” ”～が必要となっています。” ”～しなければなりません。” ”やや極端な言い方ですが、～。” ”そう考えれば、～だ。”と言った「～と思う」「～すべきだ」「～することが必要だ」「～しなければならない」のような筆者・演説者の主張が質問になることである。そして、筆者・演説者の主張への質問も上級者の質問だと考えた。・・・E

4 研究概要

1. つくりたいもの

質問のスキルをアップさせるためのシステム

2. 誰が使うか

質問が浮かばない議論参加者や生徒・学生である。

3. どこで・いつ・どのように使うか

会議や授業前である。パソコンやタブレット上に課題文を表示する。練習ドリルのように最初は考察Aの単語(専門用語・固有名詞)の意味や本質が質問になりそうなところを課題文から探してもらう。質問の特徴の説明が書いてあり、説明を読んでもらい、課題文の質問になりそうなところをマーキングしてもらう。マーキングし終わったら解答解説を表示し、参考にしてもらう。考察Aと同様に二番目に考察Bの問題事が質問になりそうなところを課題文から探してもらう。そして、順番に考察C、考察D、考察Eの質問になりそうなところを課題文からさがしてもらう。だんだん質問の質があがっていくようにする。最後に考察A～E全部含んだ課題文に挑戦してもらう。課題文に挑戦していくことで疑問が浮かぶところに気づいてもらうようにする。

5 つくりたいものイメージ図

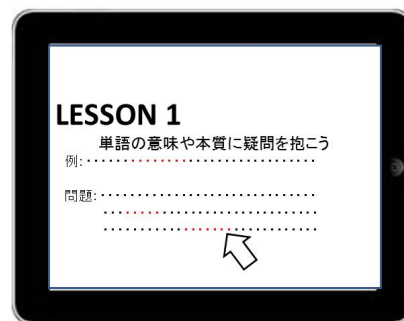


Fig.1 タブレット上で課題文の表示

6 次の発表までにすること

- ・さまざまなジャンルのプレゼンを探し、内容を書き下ろし疑問が浮かびそうなところを探す
- ・質問の質の順位に関する論文を探す

7 参考文献

- ・King,A:Inquiring minds really do want to know - Using questioning to teach critical thinking. Teaching of Psychology , (22),pp13-17,1995.
- ・2014年度センター試験 国語(評論文)
- ・自民党 政権公約 2014
- ・毎日新聞 2014年12月10日”真珠湾攻撃という選択肢しか、日本にはなかったのか。”